

# Essay

Sapiarc.com

2015年8月5日(2015-7)

## 「海行かば」

今年の8月15日はアジア・太平洋戦争が終わってから70年になるので、多くの人があるいろいろなことを言ったり、書いたりしている。なかでも安倍首相が出す予定の談話の内容に国内外の関心が高まっている。私は、70年も経ってから、何を言っても大した意味はないと思っている。だから、どうしてこうも関心が高いのか、むしろ不思議に思っている。

終戦のとき私は8歳で、国民学校（当時小学校のことをこう呼んでいた）の3年生だった。終戦になる前の2年間ほどは、子供の私にも暗いものを感じることの多い時期だった。そのなかでも、「海行かば」を学校で何かにつけて歌わされるときに、私は一番嫌な思いをしていた。これは、私だけのことだったのかどうかはわからない。当時は、この歌は嫌な歌だなどと言える雰囲気ではなかった。そのことは7歳、8歳の子供でも十分に感じていたのだ。

### 海行かば水漬く屍

（うみゆかばみづくかばね）

### 山行かば草生す屍

（やまゆかばくさむすかばね）

### 大君の辺にこそ死なめ

（おおきみのへにこそしなめ）

### かへりみはせじ

（かへりみはせじ）

この歌詞は、万葉集の中の大伴家持の長歌のなかに出てくるものだ。私の知人で、万葉集の民間研究者と言ってもよい人に説明されると、何故大伴家持がこういうものを万葉集に書いた

のか、当時の事情がわかって、意味がよくわかった。また、同様の説明は Wikipedia にも出ている。要するに、大伴氏は、佐伯氏とともに、天皇を護衛する近衛兵の役目を古くから受け持ってきた一族なのだ。家持は、そのことを聖武天皇から褒められ、今後もその役目をしっかり担ってもらいたいという懇請を受けて大いに発奮し、長歌を書いたのだ。ただし、上記の文言は、出陣のときなどに、一族で歌ったものではないかと言われている。

しかし、7歳や8歳の子供には、そんなことはわからない。「みづくかばね」や「くさむすかばね」という言葉に、私はよくわからないものの、何か不吉なものを感じたのだ。戦争が日本に不利になっていることは、昭和19年の後半あたりから子供にもはっきりとわかった。当時兵庫県西宮市に住んでいた私が、アメリカ軍の飛行機（多分 B-29 爆撃機）を初めて見たのは、1944年(昭和19年)の11月ではなかったかと思う。おそらく1万メートル以上の高空を単機で飛んでおり、ときどきキラッと光るのでわかる程度だった。多分偵察飛行だったのだろう。それを教えてくれたのは、海軍の下っ端の水兵だった。

私の家の裏庭はなだらかな坂になっており、その坂を下った先には大阪の帝塚山学院の夏期学校用の校舎と校庭があった。そこは海軍に接収されており、水兵が2人だけ常駐していた。私は、よくその人たちの居場所になっているところに遊びに行った。東北出身の純朴な人たちだったが、暇なので、よく相手をしてくれた。

ときには人が入れ替わり、外務省のノンキャリアだがかなり教育のある人が居たこともあった。海軍が何故そこを接収していたのかはわからない。校庭は陸軍通信兵の訓練にも使われており、それを側で見ていて（子供が見ているのは止められなかった）、下っ端の陸兵になるのは嫌だなと思った。

水兵たちと私の父が話をしたこともあったが、水兵たちが、自分たちは本来軍艦に乗るはずなのだが、もう当時は乗る艦がないということを知った。しかし、情報管制が厳しい時代だから、海軍に軍艦がなくなっているなどということは普通の人には信じられなかった。だから、父は本当なのかなと言って、信じられない様子だった。

「海行かば」の曲が作られたのは、私が生まれた1937年(昭和12年)で、作曲者は当時東京音楽学校(現在の東京芸術大学)教授だった信時潔だ。文部省からの委嘱によって作曲したのだそうだが、万葉の調べに合う奥ゆかしさともいうものがあり、荘重な響きのある良い曲だと思う。Wikipediaの「海行かば」の項には、当時の蓄音機用レコードに東京音楽学校の男女学生による合唱が収録されたものが掲載されていて、最初に男子学生による合唱、次に女子学生による合唱、最後に混声合唱を聴くことができる。どれも78年も前に録音されたものとは思えないほど美しい歌声で、暗さはまったく感じられない。

日本は、戦争によって、200万人を超す「水漬く屍」、「草生す屍」を出した。遺骨を回収できた場合は、ほんの僅かに過ぎないのではないか。その人たちの多くが大伴家持と同じような気持ちでいたとは到底思えない。彼らのどうしようもない無念さをどうすれば慰められるのだろうか。靖国神社が彼らを祀ることは、私は認めて良いと思っている。しかし、彼らをそういう目に遭わせた軍の上層部や開戦に責任のある政治家まで合祀することには到底納得できない。(おわり)